

科目名	幼児と人間関係						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村 寛子・下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	(中村)近畿大学九州短期大学特任教授 (下川)幼稚園教諭		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	子どもの人間関係の発達への理解を深め、保育者としての援助方法について学習する。特に3歳未満の子どもの人間関係の発達について、養育者が子どもに与える影響やそれが生涯を通じてどのように子ども自身の人間関係の発達につながっていくのか、東住吉公民館「子育て広場」での保育実践を通して学んでいく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				子どもにとって、特定の養育者の存在が発達に大きな影響を与えることを説明することができる。	
		○	◎			保育活動の中で、子ども同士がどのようにほかの子どもに関心を寄せていくか、観察することができる。	
			○	◎		保育に必要な準備を協力しあいながら、進めることができる。	
			◎	○		指導案に基づき、生き生きとした保育を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園解説 その他適宜、教員作成資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				グループ内で、保育実践について役割分担を考えておくこと	
	2	リトミックとは				リトミックについて、インターネットなどを用いてあらかじめ調べておくこと	
	3	領域「人間関係」について				各解説の領域「人間関係」の章を読んでおくこと。	
	4	子どもと人間関係の発達する姿				各解説の領域「人間関係」の章を読んでおくこと。	
	5	「子育て広場」指導案の構築				グループ内で、保育実践について役割分担を考えておくこと。	
	6	「子育て広場」ランスルー				保育に必要な準備物の用意・役割分担について打ち合わせを行っておくこと。	
	7	「子育て広場」実践				保育に必要な準備物の用意・役割分担について打ち合わせを行っておくこと。	
	8	振り返り・気づきの共有				気づいたことなどは実践後にメモをして、振り返りに臨むこと。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①実践のアイデア(20%) ②実践に臨む姿勢・他者との協力(20%) ③実践 (40%) ④振り返りシートの記入状況(振り返りへの参加・発言も含む) (20%) の割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実践のアイデア		◎		○		20%
	実践に臨む姿勢・他者との協力			○	◎		20%
	実践		◎	○	○		40%
	振り返りシートの記入状況	◎	○				20%
履修上の注意	自分がメインで担当しない「子育て広場」の時も、積極的に製作や準備などの手伝いをする。						

科目名	英会話 I						
科目名(英)	English Conversation I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	脇野真帆		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育士として8年 英語講師として21年		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	わが国のグローバル化が進む中、日常英会話は社会人としての常識になりつつある。医療福祉の現場にも外国人が入るようになり、ベーシックな英会話、医療用語などの知識を習得しておくことは必須である。中学までの英語を再度復習し、基礎英会話力をしっかり身につける。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				中学英語までの文法を再度復習し、主語述語目的語の文を作ることができる。	
	○	○				簡単な英会話ができるようになる。	
	○	○				子どもがかかりやすい病気、怪我、状況を英語で説明できるようになる。	
	○		○			英語のあそび歌、絵本の翻訳にも挑戦し、保育実習でも活用できるようにする。	
			○			英語の手話で自己紹介ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	Happy English, Let's Go, Oxford Picture Dictionary, English Time						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Unit1 挨拶 自己紹介 人に何かを頼む表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	2	Unit2 道案内 位置を伝える表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	3	Unit3 登園時の会話			テキストを事前に読んでおくこと		
	4	Unit4 好きなもの嫌いなものを聞く表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	5	Unit5-6 園内での会話 桃太郎 かぐや姫を英語で読む			昔話の翻訳をします。辞書を持参してください。		
	6	Unit7-8 保護者からの相談 アレルギーの有無を伝える表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	7	Unit9-10 園行事についての会話			テキストを事前に読んでおくこと		
	8	研究発表					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートの提出 (2)研究発表 (3)小テスト 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表				◎		80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート				◎		10%
履修上の注意							

科目名	英会話 I SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	脇野 真帆		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育士として8年 英語講師として21年		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	英会話 I の授業を通して学んだことを活かしつつ、地域の保育園で、英語を使用してこどもたちに簡単なレクリエーションや手作り教材を使用した手遊び歌披露や絵本の読み聞かせを行い、こども達への実践に繋げていく学習を行っていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
		○				レクリエーションの要素を含めながらの運営を意識し、学びを得ることができる。	
	○					レクリエーションを行う中で「伝える」ということを意識して、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	近畿大学テキスト「happy English」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	2	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	3	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	4	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)				準備に対して入念なりハーサルを行う。	
	5	2日目(保育園での実践)					
	6	2日目(保育園での実践)					
	7	2日目(保育園での実践)					
	8	2日目(まとめ・振り返り)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内の協働・参加状況				◎		50%
	レポート作成		○				50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	情報処理入門 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	社会人スクール講師3年 専門学校情報処理担当教員21年		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	各種提出資料や発表資料を作成できるよう ①入力レベルの向上 ②Microsoft Wordの基本的な操作方法の習得 ③Microsoft PowerPointの基本的な操作方法の習得 ④Microsoft Excelの基本的な操作方法の習得						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			ローマ字入力において、10分間に200文字～300文字入力できる。	
			○			Wordを使って、簡単なビジネス文書を作成できる。	
			○			PowerPointを使って、プレゼン用の発表資料を作成できる。	
			○			Excelを使って、簡単な表計算ができる。	
	○					パソコンの仕組みを理解し、適切に活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	萌文書林 保育者のためのパソコン講座						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(情報モラルとセキュリティ)・入力チェック					
	2	入力チェック・パソコンの仕組み・Wordの基本操作					
	3	入力チェック・キーボードの操作① 漢字かな変換					
	4	入力チェック・キーボードの操作② ショートカットキー					
	5	入力チェック・かんたんなおたより作成					
	6	入力チェック・ビジュアルコンテンツの作成					
	7	入力チェック・図表が入った文書の作成					
	8	入力チェック・Excelの基本操作・計算式の作成					
	9	入力チェック・関数の挿入					
	10	入力チェック・児童台帳の作成					
	11	入力チェック・グラフと計算式の活用					
	12	入力チェック・PowerPointの基本操作					
	13	入力チェック・保育園、幼稚園案内の作成					
	14	入力チェック・保育園、幼稚園案内の作成					
	15	入力チェック・保育園、幼稚園案内の作成					
評価方法	(1)授業冒頭に10分間入力を実施する。(2)授業内で演習課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		10分入力文字数		◎	○		40%
		授業内実施課題の提出		◎	○		40%
		授業態度			◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	情報処理入門 I SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	社会人スクール講師3年 専門学校情報処理担当教員21年		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	園の説明会(入園・就職等)や入園・卒園式などで動画を流すことが増えているため、動画編集ソフトを使用した動画作成の基本を身に付け、就職後もオリジナル動画を作成できる技術を身に付ける						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			動画編集ソフトを使って、オリジナル動画を作成することができる	
		○				動画編集することを想定した、スマートフォンを使った写真の撮影や動画撮影の方法を習得する	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 日目	午前	・動画編集ソフトの操作方法			動画編集で使用する画像および動画データを持って くること	
			・スマートフォンからのデータ取り出し方法				
			・テーマ「思い出ムービー」に沿った、画像・動画データの収集				
			・BGM等の決定、データ化				
	2 日目	午後	・各自動画の作成				
			・各自動画の作成			不足している画像等の準備	
	2 日目	午前	・各自動画の作成				
			・動画発表				
	2 日目	午後					
2 日目	午後						
評価方法	作成された動画に対し ①テーマに沿った内容か ②人に見せることを意識して作成されたか ③動画の時間(5分程度) ④画像等は適切か ⑤取り組む姿勢 を1項目20点として評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	完成動画		○	◎			50%
	授業態度				◎		50%
履修上の注意	スクーリングのため、遅刻・欠席した場合は単位を付与しない 態度・意欲が悪い場合、単位を付与しない						

科目名	子ども家庭支援論						
科目名(英)	Family Support						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育士は「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う」専門職として児童福祉法に位置づけられている。つまり、子育て支援に対しても専門的な知識や技術を有することを示す。現場においては、保育士がより効果的に家族を援助するために、ソーシャルワークやカウンセリングの基本知識や技術を学び、援助することが求められている。3年次の児童福祉施設実習に向け、感じる力、深く考える力を身につけ、保育士としての役割を理解していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					家族援助の対象と役割について説明することができる。	
		○				家族の形態、機能、取り巻く地域社会について説明することができる。	
	○	○				虐待家族への支援について説明することができる。	
		○		○		児童福祉施設(養護系)における保育士の役割について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・橋本真紀・山縣文治 『よくわかる家庭支援論[第2版]』 ミネルヴァ書房 2019年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童福祉施設実習について、乳児院、児童養護施設について				児童福祉施設について理解しておく	
	2	科目ガイダンス、家族援助が求められている背景と意義について				児童福祉施設について理解しておく	
	3	家族の形態、多様化する家族				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	家族の機能、家族を取り巻く地域社会の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	社会の変化と家族の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	家族の形態、機能、取り巻く地域社会の変化についてのまとめ				レポートの準備をしておく	
	7	子どもをめぐる諸問題とその背景				レポートの準備をしておく	
	8	児童虐待について				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと	
	9	虐待家族に関わる機関・施設・サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	児童相談所について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	虐待家族への支援について①子どもへの支援 ②親への支援				レポートの準備をしておく	
	12	乳児院における家庭支援について				乳児院の復習をしておく	
	13	児童養護施設における家庭支援について				児童養護施設の復習をしておく	
	14	母子生活支援施設における家庭支援について				母子生活支援施設について予習をしておく	
15	まとめ(科目試験に向けて)				科目試験に関する資料を準備しておく		
評価方法	(1)出席率(15分以上の居眠りは欠課とする)。(2)授業への参加状況(積極的な発言)。(3)小テストを4回実施する。(4)レポートを2冊提出する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席率				○		10%
	授業態度				○		10%
	小テスト	◎	◎				40%
レポート	○	◎		◎		40%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、麻生での単位取得はできない。						

科目名	幼児への特別な支援						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	瀧口 直子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	多様な社会福祉分野において、障害児者とその家族への理解と支援は重要な専門性の一つだと考えている。そこでまず、障害に関する基礎的な知識の習得を目指す。そして、障害や発達のアンバランスがあるために生じる日常生活・社会生活における困難さを徹底して、本人目線で考えていく。さらに、発達心理や乳幼児心理などの科目とリンクしながら、障害と発達、生活という3つの視点から障害児者を理解できるようになることを目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					主な障害の定義や症状などの概要を理解して説明できる。	
		○				それぞれの症状を理解したうえで、日常生活・社会生活における”本人の生きづらさ”を説明できる。	
		○				それぞれ障害によってもたらされる本人の困り感を理解したうえで、必要な支援・配慮を考えることができる。	
				○		障害がある子どもや大人本人だけでなく、家族や地域・社会の状況についても考える視点をもち、	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	早期発見と早期療育～子どものホントのねがいに寄り添う保育～					
	2	障害の理解(1)知的障害・ダウン症					
	3	障害の理解(2)発達障害・自閉症スペクトラム障害					
	4	障害の理解(3)発達障害・ADHD					
	5	障害の理解(4)発達障害・LD、その他					
	6	障害の理解(5)肢体不自由・重症児					
	7	障害の理解(6)視覚障害・聴覚障害					
	8	障害児保育における保護者支援と地域づくり					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	以下の観点・割合で総合的に評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	宿題・レポート		◎		◎		10%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意							

科目名	健康Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	養護教諭		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	<p>・現代社会における幼児期の運動遊びについて、その課題や問題点、時代による遊びの変化について考察する。</p> <p>・運動遊びについて「からだ」や「こころ」に及ぼす具体的な影響と重要性について考える。</p>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		健康の定義を理解したうえで、各出題について理解できているか	
	○	○		○		参考文献を丸写しせず、自分の考えを述べることができるか	
	○	○		○		幼児期の健康についての関連性を記載できるか	
テキスト・教材 参考図書	「健康」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	現代人の健康と生活			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	2	健全な心身の発育・発達に見る乳幼児期の発達課題とその特徴			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。		
	3	乳幼児期・自動機の子どもの健康な生活と遊び			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。		
	4	領域に関する保育内容とその方法			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。		
	5	園における健康づくりのための保育指導とその援助の仕方			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。		
	6	園における保健・衛生・安全の管理とその問題点			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。		
	7	健康保育における四季の生活と遊び			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。		
	8	新しい時代を生きる子どもと健康			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。レポートに必要な記事の収集を行う。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)講義終了時に小テストを実施する。(2)記事の収集及び内容のチェック(3)収集した記事の活用方法のチェック(4)レポート作成なりのスポーツに対する考えからの展開のチェック						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・科目試験下書き	◎	◎		◎		80%
	小テスト	○	○	○	○		20%
履修上の注意	レポートの下書きが未提出の者は評価の対象としない。						

科目名	幼児体育Ⅱ						
科目名(英)	Infat Physial Education Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上先生		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	体育講師として幼稚園各所に勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	幼児と運動遊びの必要性を知ると共に、発達・能力を把握する。また、運動あそびの展開及び運動の補助・安全管理や体育指導を習得する						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○ ○			マット運動の補助が出来るようになる	
			○ ○			跳び箱運動の補助が出来るようになる	
			○ ○			鉄棒運動の補助が出来るようになる	
			○ ○			逆上がり(個人)ができるようになる。	
		○ ○			外遊びの指導・展開が出来るようになる。		
テキスト・教材 参考図書	近畿大学テキスト「幼児体育」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	幼児体育の必要性について			実技活動の出来る服装の準備		
	2	跳び箱の安全な補助について			実技活動の出来る服装の準備		
	3	鉄棒・マット運動の安全な補助について			実技活動の出来る服装の準備		
	4	跳び箱運動の安全な補助について			実技活動の出来る服装の準備		
	5	鉄棒運動の安全な補助について			実技活動の出来る服装の準備		
	6	外遊び・ゲーム等を知らせる			実技活動の出来る服装の準備		
	7	外遊び・ゲーム等を知らせる			実技活動の出来る服装の準備		
	8	実技テスト・レポート					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業への取り組み方(服装についても)②授業の各種目について以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	各時間中のテスト			◎	◎		70%
	小テスト			○			10%
	宿題・レポート			○			10%
	発表				◎		10%
履修上の注意	①出席が6回に満たない場合は単位習得は認めない						
	②服装においても運動に適さない場合、又改善の余地がない場合は①と同様とする						

科目名	音楽表現技術SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村寛子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	地域の小学校での音楽会実施を通して、様々な楽器の演奏、合唱、身体表現を身に付ける。また、集団で一つのことを成し遂げる、人の目にさらされる、等のことを通して、自己を客観的に見る力を身に付け、共同作業の重要性、社会性、努力を積み重ねる力、協働でのルール等を総合的に学んでいく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			体の様々な部位を使用する「ボディパーカッション」を通して、リズム感の育成	
		○				【合唱】を通して歌唱力と聴音カソルフェージュカの育成と協働生の育成	
		○				「ドレミパイプ」を使用し、ソルフェージュカの育成と協働性の育成	
				○		ホスピタリティの育成	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ボディパーカッション					
	2	ドレミパイプ合奏					
	3	合唱「怪獣のパラード」					
	4	ソーラン節の練習					
	5	ソーラン節の練習					
	6	1年との合同練習					
	7	音楽会本番					
	8	振り返り・まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席 (2)意欲関心態度 (3)歌唱表現 (4)リズム表現を以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SC出席					○	10%
	意欲、関心、態度				○		30%
	歌唱表現		○				30%
	リズム表現		○				30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)、欠席の場合、近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	幼児と健康SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上 勝彦		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	体育講師として幼稚園各所に勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	幼児の運動あそびの必要性を知るとともに、発達・能力を把握する。また、運動遊びの展開および運動の補助、安全管理や体育指導を身につける。「幼児と健康」の授業で培った内容をもとに、実際の「運動会」を想定した計画とシミュレーションを行い、その中から幼児との関りや留意点についての学びを深める。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					子どもたちの安全性を最優先事項とし、他学科・グループにて議論したうえで計画を立案することができる。	
		○				各年齢における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた骨子案を計画することができる。	
				○		積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
			○			他グループが運営する競技に子どもに扮して積極的に参加することで、実際の状況に沿った体験を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	近畿大学・「幼児と健康」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目 アイスプレイング、模擬運動会の計画・準備			年齢別に分けた各グループで発達段階に応じた競技の骨子案を検討する		
	2	1日目 模擬運動会の計画・準備			年齢別に分けた各グループで発達段階に応じた競技の骨子案を検討する		
	3	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)			年齢別に分けた各グループで発達段階に応じた競技の骨子案を検討する		
	4	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)			年齢別に分けた各グループで発達段階に応じた競技の骨子案を検討する		
	5	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる		
	6	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる		
	7	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる		
	8	2日目 模擬運動会の実践に対しての振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SC中の発表・作品の完成度、演技力(2)出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品・演技			○	◎		70%
	出席				◎		30%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	保育実習事前事後指導 I (保育所) SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	保育実習の意義・目的・内容といった概要を正しく理解する。それに続いて幼稚園と保育所の違いや保育所保育指針の改定内容についての理解を深め、保育実習の際の実践に繋げる為の集中講義(SC)である						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代における保育園の役割を正しく理解する事ができる。	
	○					幼稚園や保育園の違いを知り、正しく理解する事が出来る。	
	○				○	模擬保育を通し、3歳児未満、乳児に対する保育方法を知る事が出来る	
	○				○	擬保育を批判的に考察し、自信の保育内容に反映する事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド</li> <li>・幼稚園教育要領・保育所保育指針</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	講義「幼保の違い、保育園の役割、保育所保育指針について」					
	2	模擬保育実践					
	3	模擬保育実践					
	4	全体考察・レポート作成					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①SCへの出席②授業への参加意欲・発表③レポート 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCへの出席					○	10%
	授業への参加意欲・発表		○		◎		50%
	レポート	○	◎				40%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合、近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	保育実習 I (保育所)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育士資格を取得するために保育所で行う実習。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ①保育所における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようなようにつながるか理解することができる	
				○		実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
				○		自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	10. 日間	<p>保育所実習では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。</p> <p>1. 保育所の内容、機能について理解する (保育所の1日の流れやプログラムの理解など)</p> <p>2. 保育所における子どもの理解 (年齢(月齢)ごとの子どもの発達とその特徴など)</p> <p>3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること</p>				<p>・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする</p> <p>・各自の実習のねらい、課題を明確にする</p> <p>・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする</p>	
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習園の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	音楽表現Ⅱ						
科目名(英)	Music Performance Ⅱ						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子/小賀直美/石丸真理子/木下美智子/長谷川裕子/藤田一美/古田淳子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師(中村)		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育の現場では、音楽が必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」「遊び歌」「行進曲」等。その音楽をすべて保育士が把握をし、ピアノ伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲をうたい、ピアノ演奏する。そのために必要な知識、技術も同時に身に付ける。2年生では現場で実際に使う曲が中心となるため、1年の時よりも更に難しく、長くなる。更なる努力が必要である。						
授業形式	講義:	演習:	○	実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					音楽の基礎知識となる、楽典の習得(楽譜、Jや休符、表紙、記号等の知識)	
		○				ピアノの演奏技術の習得(正しい運指、左右の手のスムーズな動き、10本の指の独立した動き)	
			○			声楽の基本技術の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)	
			○			集中力の持続、継続的な努力、意欲	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本、声楽教本</li> <li>・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック</li> <li>・チャイルド社発行/子どもの歌100</li> <li>・音楽之友社/バイエル教則本・講師作成の楽譜(ファイル保管)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	バイエル80番				バイエル80番	
	2	バイエル81番				バイエル81番	
	3	まつぼっくり				まつぼっくり	
	4	おもちゃのチャチャチャ				おもちゃのチャチャチャ	
	5	まっかな秋				まっかな秋	
	6	うんどうかい				うんどうかい	
	7	思い出のアルバム				思い出のアルバム	
	8	練習					
	9	やぎさんゆうびん				やぎさんゆうびん	
	10	バイエル88番				バイエル88番	
	11	ことりのうた				ことりのうた	
	12	あわてんぼうのサンタクロース				あわてんぼうのサンタクロース	
	13	練習					
	14	まめまき				まめまき	
	15	うれしいひなまつり				うれしいひなまつり	
	16	いぬのおまわりさん				いぬのおまわりさん	
	17	バイエル100番				バイエル100番	
	18	なんでもたべるこ				なんでもたべるこ	
	19	バスごっこ				バスごっこ	
	20	練習				後期試験曲練習	
	21	練習				後期試験曲練習	
	22	練習				後期試験曲練習	
	23	練習(模擬試験)				後期試験曲練習	
24	後期試験						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1曲ごとの合格を経て、試験曲に臨むが、授業中での曲の履修が完全にできなければ、単位を修得できない。</li> <li>・ピアノの上達は、日々の継続的な努力なくてはあり得ないため、態度、意欲が重要なカギとなる</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		80%
小テスト		○		○		20%	
履修上の注意	習得曲が非常に多いので、日々の練習を計画的に行う。						

科目名	合奏Ⅱ-②						
科目名(英)	Ensemble						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	高松聡美/中村寛子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	演奏家歴34年現在も活動中(高松)		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	<p>保育の現場において必要不可欠な音楽。幅広い知識とそれを応用できる力が求められる。この授業では保育現場で活用できる子どもの曲や打楽器を中心に講師のオリジナル編曲を用いながらクラス単位で協力して取り組む。合奏を通して社会性を身に付ける。「コミュニケーション力」「チーム力」「忍耐力」「協調性」「人を思いやる心」などを育む。また資料、楽譜、楽器等自分の物、公共の物を大切にすることを身に付ける。これまで培ったチームワークを生かし、観客に発表できるレベルの作品に仕上げることができる。広い視野を持ち後輩に指導ができる実力をつける。将来音楽指導をすることをイメージして取り組む。</p>						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
					○	資料・楽譜に記名、ファイルに収め管理することができる。	
					○	準備・後片付けが速やかにきれいにできるようになる。	
			○			楽曲を観客に発表できるレベルに仕上げることができる。	
	○			○		チーム内でより良い作品にするための話し合いができるようになる。	
○	○	○	○			後輩への指導ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	中村寛子編曲集 高松聡美編曲集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	後期について一取り組み曲など全体像を把握する			クラスのチームワークを整えておくこと		
	2	練習一楽譜を読む パート分けをする 役割分担を決める			楽譜をなくさないようにすること		
	3	練習一ドレミパイプなどチームを中心とした合奏の練習			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	4	練習一通せるようになる			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	5	練習・レベルアップー強弱をつける テンポ感の調整 暗譜			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと 暗譜をすること		
	6	練習・レベルアップー全体の流れの調整			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと 後輩の指導が必要な場合は行う		
	7	練習・レベルアップー動きを入れる等の総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと 後輩の指導が必要な場合は行う		
	8	練習・レベルアップー動きを入れる等の総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと 後輩の指導が必要な場合は行う		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)資料・楽譜の管理ができていないか。(2)授業中の態度・意欲。(3)作品発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品			◎			25%
	授業態度				◎		25%
	資料・楽譜楽器管理					◎	25%
楽器の名称・奏法		◎	◎			25%	
履修上の注意	仕上がりに妥協せず、よりレベルアップを目指してもらいたい。後輩への指導もできるよう心掛けてほしい。						

科目名	就職実務 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身だしなみ、教養知識を身につける。授業の中で様々な方法を用い自己覚知を行ったり、業界研究をおこなったり、社会人として自分の将来をしっかりと考え3年生の就職活動に繋げられるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自分の今の強みや弱みを認識し、長所・短所として文章化する事ができるようになる。	
			○			社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践する事ができる	
	○		○			就職活動にむけて必要事項のメモをとる力がつく	
				○		今までの自分と向き合い、自己課題を見つけ、なりたい「保育士像」をイメージする事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	「働く事」を考える 今後の就職活動の流れ				就職ガイドブックを持参する	
	2	「社会人」としてのマナーの大切さ				就職ガイドブックを持参する	
	3	メモをとることの大切さ				就職ガイドブックを持参する	
	4	エニアグラムによる自己分析				就職ガイドブックを持参する	
	5	自分の思う自分自身について考える(主観のイメージ)				就職ガイドブックを持参する	
	6	自分の強みとは何か				就職ガイドブックを持参する	
	7	自分の過去と向き合い、自分を知る				就職ガイドブックを持参する	
	8	どんな「先生」になりたいか 自分の保育観を探す				就職ガイドブックを持参する	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)出席(2)意欲・努力(3)提出物状況(4)授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席				◎		40%
	意欲 努力				◎		20%
	提出物状況				◎		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が5回に満たない者は単位を与えない						

科目名	保育園実習指導Ⅱ						
科目名(英)	Guidance to Child Field Study Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育実習に向け日誌を書く際の視点の置き方やこどもの姿や発達を理解した上での指導案の作成方法を知る。また、実習で実施される設定保育に向け、保育のシミュレーション等の準備を進めていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				こどもの姿、保育士の仕事を捉える為の視点を習得する	
		○				自身の考察を踏まえた日誌に記録する事が出来るようになる	
		○		○		こどもの姿を考慮した保育指導案の作成が出来るようになる	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	幼稚園実習の実習評価振り返り					
	2	様々な保育形態について					
	3	実習における観察・記録及び日誌の記入について					
	4	日誌の書き方・ポイントについて					
	5	事前実習直前指導(目標の設定)					
	6	事前実習振り返り					
	7	日誌の書き方・考察について					
	8	全管理と健康について					
	9	食事の援助について					
	10	指導案とは・設定保育とは					
	11	指導案の書き方・ポイントについて					
	12	設定保育準備					
	13	設定保育準備					
	14	設定保育準備					
15	実習初日持参書類の確認等、直前指導						
評価方法	①授業態度②発表③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		40%
	発表		◎	○	◎		40%
	取り組み	○	◎		◎		30%
履修上の注意	欠席の場合授業で寄付された書類は各自でとりに来る事						

科目名	保育実技Ⅱ－②						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	長田 皓子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	保育指導者として子どもたちの前に立つ時、子どもたちの心の動きをよく観察し受け止めながら、どのように子どもたちを喜ばせられるか、また、どのように意欲を引き出していくことが出来るかを学ぶ、学生自身が創る(作る)喜び、伝える喜びを学び、体得しながらよりよい保育者を目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					集中させるときの手遊び、教える手遊び、年齢にあった手遊びを身につける。	
	○			○		製作活動を幅広く経験する。	
	○		○			身体的活動を(体育)楽しくするきっかけづくりを学ぶ。	
	○	○				遊びの中にも知的活動があることを知る。	
	○					子どもたちから意欲を引き出す方法を学ぶ。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	紙飛行機(いろいろな種類)					
	2	紙皿シアター(つやのある紙皿)、ひっくり猫					
	3	集団遊び(体育的内容も取り入れる)					
	4	じゃんけん遊び、絵かき歌					
	5	体育あそび					
	6	実技実習「伝えたいことは何か」を意識する。					
	7	実技実習「伝えたいことは何か」を意識する。					
	8	凧あげ(たこを作り、公園にあげに行く)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業への出席・積極的参加(2)宿題・レポートなどの提出物(3)授業中の発表・作品 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席				○		10%
	積極的参加				○		10%
	宿題レポート		○				10%
	発表・作品	○	◎		◎		70%
履修上の注意							

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢」、また「志」について考える。夢を言語化してビジョンにし、強い信念で自分以外の人や社会・公のことが視野に入ると「志」に近づくという事を学ぶ						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		自ら考える、気付く力の獲得	
				○		人に伝える力・自己発言力の育成	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと「志」				振り返りレポートの作成	
	2	自分を取り巻く環境を知る				振り返りレポートの作成	
	3	自己を知る				振り返りレポートの作成	
	4	伝える力を学ぶ I				振り返りレポートの作成	
	5	伝える力を学ぶ II				振り返りレポートの作成	
	6	先人の志に学ぶ				振り返りレポートの作成	
	7	成功者の考え方に学ぶ				振り返りレポートの作成	
	8	自らの志を言語化する				振り返りレポートの作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートを8回実施する (2)最後の授業で発表する。 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成・発表				◎		100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位未取得となる。						

科目名	一般教養Ⅱ-②						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次の児童福祉施設実習に向けて、子どもたちの宿題等を見てあげられるように数学の復習を行う</li> <li>・文章問題を解くことによって、考える力を向上させ、他の学生に解き方を説明することで、伝達力を向上させていく</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					3年次の児童福祉施設実習に向けて、子どもたちの宿題等を見てあげられるように数学の復習を行う	
	○					文章問題を解くことによって、考える力を向上させ、他の学生に解き方を説明することで、伝達力を向上させていく	
テキスト・教材 参考図書	実教出版 一般教養&SPI2 実教出版 一般教養チェック&マスター						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス及び実力テスト					
	2	一次方程式					
	3	一次方程式					
	4	一次連立方程式					
	5	文章題(数量関係・速さ)					
	6	文章題(仕事算・年齢・割合)					
	7	食塩水の濃度計算					
	8	食塩水の濃度計算					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	後期末正試験で評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	児童福祉施設実習指導 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	3年次保育実習 I (施設)の事前学習として、児童福祉施設の概要や、それに関わる制度・対象児・職員などについての基礎知識を学び、児童福祉施設での実習に対してのイメージを持ち、実習に対しての意欲・関心・及び態度を育む為の授業とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					児童福祉施設の種別を理解し、どんな施設があるかを説明する事ができる	
		○		○		実習内容についてのイメージをもつ事が出来、実習に対してプラスに望む意欲を持つ事が出来る	
	○					児童養護施設・児童発達支援センター・乳児院の対象児やそれぞれに関わる職員の職務を説明出来る	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 児童福祉施設の実習の流れについて			教科書を持って来る		
	2	福祉系 医療系の児童福祉施設について			教科書を持って来る		
	3	実習報告会①			実習質問シートを事前に記入しておく		
	4	実習報告会②			実習質問シートを事前に記入しておく		
	5	児童養護施設について①			教科書を持って来る		
	6	児童養護施設について②			教科書を持って来る		
	7	乳児院・児童発達センターについて			教科書を持って来る		
	8	次年度の実習にむけてのまとめ			教科書を持って来る		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業への取り組み(2)発表 提出物(3)出席 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業への取り組み				◎		40%
	発表 提出物	◎			○		40%
	出席				○		20%
履修上の注意	出席が5回未満のものには単位は付与しない。3年次の児童福祉施設実習指導に繋がる授業である。						

科目名	乳幼児の発達						
科目名(英)	infant nursery						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	安部 知世		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	発達障害の病院で医療保育専門士と保育園で保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	乳幼児の行動やふるまいから気づき、必要な発達を促す遊びの提供を行えるように実践を通して学ぶ。赤ちゃん人形を用いて、抱っこ、おんぶ、食事、着替え、排泄、食事、授乳などの実際を体験し保育現場での関わり、技術を知る。健康管理や乳幼児の言葉にできないところについても学んでいく。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					乳児保育における発達の順序を知り、乳児保育の役割や関わりを知り、実行できる。	
		○	○			乳幼児を観察し、自分で乳幼児の発達に気づき、発達を促す行動ができる。	
			○	○		手遊びふれあい遊びや玩具作りを通して月齢に合った表現、実技を行い工夫できる。	
		○	○			乳児の生活に沿った知識技術を学び、乳幼児が安心安全に心地よく生活できる関わりを行うことができる。	
	○	○			乳幼児の言葉にできないところに気づき、安心して月齢に合った言葉を出すことが出来る関わりができる。		
テキスト・教材 参考図書	同文書院 初めて学ぶ乳児保育 参考図書:クリエイツかもがわ 乳幼児期の感覚統合遊び						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス 乳児保育について				パソコンの準備をすること	
	2	乳幼児の発達 自己肯定感を育むところと身体と脳の発達				パソコンの準備をすること	
	3	手遊びわらべ歌とふれあい遊びについて理解を深める				パソコンの準備をすること 授業内でテーマを与えます。各自調べ、次回までに発表準備をしておくこと	
	4	手遊びわらべ歌とふれあい遊びの発表と実践				発表の見せ方の工夫や配慮をする、歌詞を書いたプリントを準備すること	
	5	0～2歳 基本的生活習慣【抱っこ・睡眠・着脱】				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	0～2歳 基本的生活習慣【おんぶ・排泄・食事】				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	0歳～2歳乳幼児と遊べる玩具制作				保育室使用	
	8	乳幼児のこころと言葉の発達と健康管理				パソコンの準備をすること	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験の実施(2)授業中の発表・提出物・作品 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	発表・作品	◎	○		◎		20%
履修上の注意							

科目名	保育製作						
科目名(英)	Childcare production						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	はさみ、のり、カッター等の製作に用いる道具の特性を知り、正しく機能的に使う事が出来るようになる。また、それらの知識を複合的に実践に活かし、テーマに基づいた制作、作品を作り上げる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				保育制作に必要な道具の正しい使い方を習得し実践できる	
	○	◎				コラージュの技法を用い、テーマに基づき、制作を行う事ができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス					
	2	調べ学習(はさみ・のり・絵の具・クレヨン)					
	3	調べ学習(はさみ・のり・絵の具・クレヨン)					
	4	パタパタカード作り				製作に必要な材料を持ってくる	
	5	コラージュの技法について				製作に必要な材料を持ってくる	
	6	コラージュを作った作品作り				製作に必要な材料を持ってくる	
	7	コラージュを作った作品作り				製作に必要な材料を持ってくる	
	8	コラージュを作った作品作り				製作に必要な材料を持ってくる	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度②作品、発表③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する 成績評価基準はS(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度		○		◎		30%
	発表		◎		○		30%
	取り組み	○	◎		◎		40%
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位の取得は認めない						

科目名	総合演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	履修している保育・教育に関係様々な科目を包括的に理解し、科目同士の繋がりを意識し、より深い学びを得ることを目的とする。また、授業での学びをより実践的な学びへと昇華させ、知識と実践の連動を図る						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					幼稚園教諭・保育士として捉えるべき姿勢や心構え、役割などを多角的に理解できる	
	○			○		他者と協力しながら協同の中で幼稚園教諭、保育士としての資質を深めていく事が出来る	
		○		○		学びを反復、連動し実践に生かす事で深い学びを得る事ができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	模擬設定保育にむけて					
	2	模擬設定保育にむけて					
	3	模擬設定保育にむけて					
	4	模擬設定保育にむけて					
	5	東住吉小学校音楽発表会に向けて					
	6	東住吉小学校音楽発表会に向けて					
	7	東住吉小学校音楽発表会に向けて					
	8	東住吉小学校音楽発表会に向けて					
	9	東住吉小学校音楽発表会に向けて					
	10	あゆみらい保育園クリスマス会に向けて					
	11	あゆみらい保育園クリスマス会に向けて					
	12	あゆみらい保育園クリスマス会に向けて					
	13	後期交流会に向けて					
	14	後期交流会に向けて					
15	後期交流会に向けて						
評価方法	①授業態度②実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎				50%
	取り組み	◎					50%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	オペレッタ I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	オペレッタというものの概念を理解する為に様々な視覚教材に触れると共に、自分達の今までの学習内容を基に、オリジナルの創作劇を協同し、作り出していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				オペレッタとはどういったものであるかを正しく理解していくことができる	
	○			○		児童劇に必要な要素を理解し、自身の創作に生かす事ができる	
		○		○		大まかなテーマを決め、協同しオペレッタの外枠を作り上げる事ができる。	
	○	○				個人の特徴や性格を把握し、個性を活かし、適切な配役を行っていく事ができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オペレッタ・創作劇とは					
	2	過去の作品鑑賞					
	3	過去の作品鑑賞					
	4	テーマと概要を決める					
	5	テーマと概要を決める					
	6	テーマと概要を決める					
	7	ストーリーを作る(話し合い)					
	8	ストーリーを作る(話し合い)					
	9	ストーリーを作る(話し合い)					
	10	ストーリーを作る(話し合い)					
	11	ストーリーを作る(話し合い)					
	12	配役を決める					
	13	大道具・小道具・壁面・音響・衣装の役割決め					
	14	練習計画の作成					
15	台本読み合わせ						
評価方法	①授業態度②実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	取り組み	◎			◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	交流ゼミⅡ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを構成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行っていく						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図る事ができる	
				○		物事の段取りを修正しながら臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行する事ができる	
				○		物怖じする事なく、積極的にレクリエーションに参加する事ができる	
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営する事ができる	
				○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	3学年全体でのレクリエーション					
	2	3学年全体でのレクリエーション					
	3	グループ内でのレクリエーション					
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備					
	5	交流会への実践					
	6	交流会への実践					
	7	交流会への実践					
	8	交流会への実践					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢・態度が第一優先である。評価は出席状況にて「R」(履修)評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	姿勢・態度				◎		100%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。						